令和元年度　厚生経済常任委員会　視察研修報告書

1　視察日

令和元年１０月１７日（木）
令和元年１０月１８日（金）

2　参加委員

高畑一幸（委員長）、青柳好文（副委員長）、夏八木盛男、廣瀬重治、日向　正、廣瀬明弘、髙野浩一、飯島孝也、小林真理子

3　視察先及びテーマ

・名　称：富山県富山市議会
・住　所：富山県富山市新桜町 7-38
・テーマ：「コンパクトなまちづくりについて」

・名　称：新潟県長岡市議会
・住　所：新潟県長岡市大手通 1-4-10
・テーマ：「ＰＦＩ事業方式で整備をした
　　生ごみバイオガス発電センターについて」

4　視察研修報告

1 日目の富山市は、富山県のほぼ中央部から南東部にかけて位置しており、市の面積は富山県全体の 3 割を占め、人口は約 41 万人の都市であり、全国的にも「くすりのまち」として有名だが、近年はＩＴ関連産業の育成や、観光産業の発展にも取り組んでいる。

研修目的である「コンパクトなまちづくり」については、市の「活力都市創造部」から説明を受けた。

富山市は 2030 年には、全人口の 3 割が高齢化となる見込みに加えて人口減少など、都市を取り巻く課題に対応しようとしている。世帯あたりの自動車保有台数の全国ランキングでは、山梨県の 11 位に対して、富山県は 2 位と、過度な自動車依存が公共交通の衰退を招き、その結果、車を自由に使えない人達にとっては極めて生活しづらい街になっていた。

そこで、鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることで、公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを目指した。

まちづくりの 3 つの基本方針として、①公共交通の活性化②公共交通沿線への居住推進③中心市街の活性化に取り組んでいる。特に「中心市街の活性化」の取り組みでは、中心

市街地への投資により税収を増やし、その税収で中山間地域にインフラ整備をする税の還流や、病児保育室、産後ケア応接室、まちなか診療所等の施設の整備を充実させた事で、子供からお年寄りまでが住みやすい街に変化していると強く印象に残った。

２日目の長岡市は、新潟県のほぼ中央部に位置し、人口２７万人であり、市内を日本一の長さと流水量を誇る信濃川が縦断している。平成 16 年に「新潟県中越大震災」という未曽有の大震災に見舞われたが、市民の不屈の努力で立ち上がり、災害からの創造的復興を市政運営の柱に据え、「市民力」と「地域力」を生かしたまちづくりを進めている。

研修目的である「ＰＦＩ事業方式で整備をした、生ごみバイオガス発電センター」については、長岡市環境部と、ＪＦＥエンジニアリングの同行の元、事業概要と事業方式、事業効果について説明を受けた。

従来のゴミ焼却、燃やした後の焼却灰の埋め立てと言った処理方式を資源化に転換するため、生ゴミを微生物の働きで発酵・分解させ、その際に発生するバイオガスを発電に利用している事、更には発酵残さも民間のセメント工場などの燃料として売却することで、生ゴミを 100％利用しているという説明を受けた。

本事業を計画した平成 21 年当時は、バイオ処理はまだまだ全国的に普及しているゴミ処理技術とは言えず、民間事業者の設計、建設及び運営・維持管理における資金、経営能力ならびに技術能力に関するノウハウを活用する事業としてＰＦＩ事業のＢＴＯ方式を導入している。

事業開始の２年程前から、市民に向けて、情報誌やホームページ等の広報を通して、バイオ事業を紹介し、燃やすゴミが減る事で様々なメリットが生まれる事を丁寧に説明し、また生ゴミ分別収集開始の半年前から市内全域で説明会を実施していた。

２日間の視察研修の成果を本市のまちづくり政策及び、公営企業の経営戦略へ議会として政策提言ができるよう、いっそう鋭意努力していきたい。

※ PFI（プライベイト・ファイナンス・イニシアティブ）
公共施設等設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うことで、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図るという考え方。

※ PFI 事業の BOT 方式
民間事業者が建設・運営を行い、一定期間経過後に公共に施設を譲渡するプロジェクト推進方式。

●10月17日　富山市役所会議室にて

●10月17日　長岡市生ごみバイオガス発電センターにて